

防災訓練の計画及び実施に向けたチェックリスト

1) 地域特性の把握

< 地域の危険箇所把握 >

- かけ崩れの危険性がある場所及び土砂が広がる範囲
- 河川が整備されていない場所
- 倒壊の可能性があるブロック塀や電柱、街灯、枯古木
- 落下しそうな屋外看板等
- ため池の護岸や堤防で老朽化している箇所や脆弱な施設
- 防火水槽や貯水槽(蓋含む)
- 危険物や化学薬品等を扱っている事業所

/ 7項目 把握度 %

《《有効な防災訓練》》
危険箇所の把握 など

《《協働例》》
消防団 など

2) 組織の活動

《《組織づくり》》

- 組織の長、役員(災害時の活動を指揮できる人)は一定人数いるか
- 平時から、女性・子ども・高齢者・障がいのある方等の幅広い意見を取り入れているか
- 防災士(防災に関する知識を有し、防災活動を指導できる人)はいるか
- 自治会における災害対策場所は、いつ誰がどこに開設するのか決まっているか
- 自治会や各班の役割ごとのマニュアル(行動の段取り)はできているか
- 自治会で使用する防災用品は保管してあるか
- 自治会での情報通信体制は確保されているか
- 災害時の地域内情報をどのように収集するか、方法は決まっているか
- 自治会の被災状況を協議会に伝達する仕組みはできているか
- 自治会長は地域の災害対応を住民に的確に指示できるか

/ 10項目 達成度 %

《《有効な防災訓練》》
組織協議、対策本部設置訓練、情報伝達・収集訓練 など

《《協働例》》
行政 など

《避難体制》

- 実際に避難を要する対象者を把握しているか
- 避難する際に、支援が必要となる者を把握しているか
- 緊急避難場所の開設・運営体制は整っているか
- 避難所マニュアルは作成、整備されているか
- 緊急避難所の場所は、地域住民の誰もが知っているか
- 防災資機材や防災用品を備蓄してあるか、保管状況は良好か
- 緊急避難場所の受付場所は決まっているか
- 緊急避難場所の屋内・屋外ごとに使用目的別エリアを決めてあるか
- 緊急避難場所の入所の順序、入所後のルールは決まっているか
- 運営スタッフはいるか
- 電気や水道、ガスの供給が止まっても非常食の炊き出しはできるか
- 配給用の食器類はあるか、衛生的な配給はできるか
- 各種の台帳(世帯台帳、地域資源台帳、要援護者台帳など)を整備しているか

/ 13項目 達成度 %

《有効な防災訓練》

緊急避難場所開設訓練、避難所運営ゲーム(HUG) など

《協働例》

行政・防災士 など

《救出・救護体制》

- 建物倒壊時の被災者救出用の道具や工具はあるか
- 建物倒壊時の被災者救出用の道具や工具の運搬方法は準備できているか
- 負傷者の搬送先、搬送方法は決まっているか、準備できているか
- 負傷者の応急救護用の防災用品はあるか
- 住民レベルのトリアージや心肺蘇生法を的確にできるか
- 地域で使用できる共用のAED(自動体外式除細動器)は配置されているか
配置されている場所を把握しているか
- 最寄の救護所(開設場所)を住民が承知しているか

/ 7項目 達成度 %

《有効な防災訓練》

倒壊家屋等救出訓練、救急救命訓練、地域資源台帳作成 など

《協働例》

消防・行政 など